







B 44713

一方題 け付 百分 なくる教命 後著花の すー ざるさ

うにる輪のがとずるかりまるろうける らい戸回川へからかる人、尾がおきなる もとちるの軍ろうろとして 蓮は村とは 真を動物なったけっちょうないのもろ かろうちる 板橋の なそとうろく きぬのをありくりあくろうろ言めの馬場 しの中へありからうれともて ときなけって なりれもうそのかいかられかるろう をのうろいきやきてるいるけらしていいかん 公の川湾色小は作めるて巻くのさい こ人小男ううとのい朝日春南杉午其相二人 のへの名とまりをきるかとあのはしい 村しく むかてぬの例かっかくれしゃく ろうかとはかかくかしつう人からか しきつめているいはなしつうろうひと見の けてきかいくとうしてのまりこと 場のあるとなりの方夜的至 ゆうまむなけるろりのうしつ ろう そもろう

蔵の行とさて相和の降角からころがる月 ころとありるきて大きい合うとりるからて いかがとナハ町くろうもうぞとずてひち 鸣事とうりもうて あのもちれるにぬぬら えーちとうう 家とぬいた 焼のりくると 伊書保るとのいくとあるうるへはろくまく 大度ない野方とすのあるかりて芳茶は かりの花れありこれ 我内の声作りて素意 りる七個百甲俊氏発下野の日色よいの 見しいるるためりろう上当十歩を切り あもずとるへいかしばすかしるるこれを の富してありいやもうなしない かくろいあはむしろかりのとの、ほうもそ いりなのでにいましの一震を私もろ おけしいるであるようとからいは 川野の南ままへらか 在るる くうる 一のゆうろとすら食せて 下後と二时あり らる表あのるれ そろくの行客かるち

のようとはいるとは、一切のからではつから

THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PARTY OF ころと通りさて大震小会りともしのかられ 蔵の名とさて何和の譯角かららの所 いからとナハ町くろりもあをしずてひか 鳴争とようるうてあるまちれとの路路も かりのおれありるや我内の沙林り えーところうし 夢とぬいたぬのかくろと 伊書保るとのいくとあるのもしょろくむく 見してるるためりろう立ち十ちを物と あんずくあくいかし ぬけれてきるささ 大食ない野るとすのあるかりて芳茶は の度しついありうやもうなんかい りる生物百甲級氏統下野の日見らいの 舟りしのゆうろとまら食せて いてるいあはむしろかのとのいうまて かりなのでにいましの一震を移ちる おいしいら同であるようとう 川時の常りまくらか たるめ くうる ・下食と二时から 可表なのるれ そくくの行客かるろ

一方ではなるのは、心内では、少されている。 このでうかく 思のをあるはりを命とら こくしいりといわりと五里しらりむちくち の封疆ところいてつかける四里八町とい そろかというもう名が一姓谷 人子村と終谷の伯母等うる事先のもうる 古写快情報ライラかて上尾るは らくたらしてまりるの 果りを高とらんやくにゆま十八種なの よい说话の時社すります川鉄岩機日見か からたの方に後父山まくをいえたのこ のちゅのかいは雷電いとべろうとえも八 格がすととう古字はたく見かしてなと とのそうれ込むて橋川のまるから吸引 村ははかぬけ色へわりなるかられとかり あのあやがうひったのもろれ かくそにえるしているい路はのうろ いるうや眉色はならくうう ぬをあのいとやそくわらしいろうと てそろうと 遊いる 一ろんとそ

の女をからけるうい あるもまなく きないひんしゃとん をきしてとうかし 皂美松根の

物してするなくて 里ってん

谷のあるかろうと蓮生心然谷とり人は若 九九年丁和九月四日一刻的七年堂以蓮生 かっに室のすーろのしてあり碑名は来 事るのでに見のなと材かるとから の本像自幸の文書受茶をかりい会な りを受えってのうりあきくり墳墓

棒幕動のあくむからく付宝して信く りこいるか関すりしてるてるつかり彼は う所をううこととあれかとうき

めなるかじとれてかるとせいっとう あるころれのまとなってのあくるけん は待くろんくすのあろうとなかしくいあれる うがくろかなとといるかとと ハンろにすをひろ にもりならかなしまくるとやくるくた くていまでいめ

在牌之一面よりでれて九輪草

あれないなところをありは初くてい連せ のなとなり、できて了まるもので 春ととろはるかてはあられたちかな らいとうくられるとうとういきく もとめらる小野子我やの多ととうか しけらとあとくる更やとする同かれる ーっあるやろととしてあるかと

ではれるでは、間とでは、一部の地にとるなど、なる。同一時には

香冰寺、曹洞京了~京朝禅师乃完 から入ろべるや到きそ村はそう

奏の神震八南と通見はうとう

ちよう時はとにかかかくなかるかりあれ

うれぬなのなりしろだっまとなのあるり

三巻の頃かり中央と思れたのろいもろ ぬきりかうりからこのくりわ したいるのをかりと 御かすのたのろと

いいととうのるいのとろろうないれのちり もうのおるとあらううし そうせんきょうしい そうたは持かのところ 縁起ととととえる い名後はゆめのかのるな事とまるる

びときるに金費の社かりからにことのの 傍まと建かっかつのあうりとまりかれの 夏とこかゆくいたるおないとちっくりわい のころぬりときりしれ年氏改とあるい れりをゆうとからく がたありかんる ちきてくくいるからかりいはあか り一地度後すてうかます大多為事と 其人とうとにぬきろくなしたして み境をなららるかくなけるうろう ゆうれてはるそれから一見かしん 一傍示学とろう村ちとなのはりしる おうなて種の変あるる解なくろう するちいそうとのはろいまれいふの奏ん かとうしていぬけいるないちかり てきらゆう しっとくくるるにつけ とうちくこれ具なのりしていなあかい ないとめてきついてはくこうとも うちぬくるるちろや春日らけ れるそれ必然と降よる春は多

すると、スパスにとない、小さんとしてなる。ないは、は、日本には

大大大大大大大学 一年一年一年一年一年一年 士佐からようなのなかとうかけのびおうなか きめくのりわかくとのこい見とちょうに 鼻のるとうえりに生成るとくろてろとのう 震と征代のけみ~~ろか~一方えかり いみらし 寒まへろうきこるをからり板 のためといむのかろめるろうかろのけ ゆうとくのろうかをはうるをて新 八幡のまありこれ上古義都の報を代本 かのとうなりをとうわりいくとはとうのも つくかろうりの格ととしては慮 かそろうやましけからる後門幅と せいるいゆきりあつるかっている 町の名うなとありの ありくろぞそかちょうもくそのいなる の名まる見 するのないの舟橋の旧頭あってのこ いきいているとうちけいのでろう 養色の焼るちとそててろりる くとつかきし して全変地とろうしてあると -极今はぬしてをもう

の場下とるり、といれところうところかく 何人馬車のるときくろしてやこの へるさくなくのまれら 食えるる好ないのとを裏り けとかくあ中川とろう板食養 京一村も軒う~So件理となる れち地クフリッシのまり田とあちかて 別りまるうのなりと かいれずののなる おとかりてしまれ たった病草にちのもんとし

をえてついるそろのきろ ふりるるないなろうま人かきと来 あいなのかくせんぎのを持つられがる

百合名大たの対要八歳とろとたりえるい よ破大色の見題をとろううう 7 てんころういろんとうはあるまった おろうやまなとおら種 ものくくのまりよりなどろうとでも ううとかし そうかりる 一めれてくるでろのいのほとよ しているから

するでなる大をいずし代かなる帝一のうち て九みのりとして豊俊倒へてくりほしと 小四条左右にくえなしとかありてのるる 関と過了な日は小かろこのをう はる すてかているるろしられり ちんろ 世ーをスーとはる四書を思るかろうりん よう人別石級いと路方一人跡攀百 ろうなとうしありちゃける蔵様とあ というやかとかくい日本なの尊をうや

大為いき間からない 南西地に家主義の経過度

はろるのるくいいろく 巻りて本春の食 碓水質の東方はは人園中のあかるとか のまというもうが郁しちってい 人色月七呼吸の多や春のうひ (よば

ち」起かり

と歌うしとのとくなし ひまるく人とす 専うなまとるとあるろろうけってき くいとうはありすー 胸のをあるとし らか見日井や梅日玄 中 一月あかいるし そうってんしょ

「大い名は大名と、古の世の大きになる 不動きろくし入めっくかぬりかところると うるできやかれるおきてきつうん

雑なるかり とり、後路崎運してからへかりもうし

内以昨了のかり多い去傷者耶しのいま 年吹鎮山一日本民の言東行了人 笛吹炸のくろなる鉄班核視のはろう ~~ろ小信後上野の上場の標抗ありま かるを終やもうに九折

あまくるくかかしゃやころびかんとう ゆら建成のうろ新田足利の西あ干労とう 一部小事力小典籍日之之性蓄力福 - 岳馬と交へし戦をありと人のし

軽井いるとれると遠近の里とり八土人ろ 小湯川山の南小あっそ 風気のむろしい 口碑かれいからくい信し 引しくう うりわろりり野りの曲往とあるりて 白双八名がやけの む 剪

てつているとのはとつうかいか ののかりってしていまれるり 鹽沢原のすりるのちと見とむるから 15 \$ The The The Thirty of the いるとかっかてたる項とり煙をのかっと サカ四ろかとといくなるし様を記項 ちんろるーし電子なのうによりはそろ へのからことがして三里金してあのうりいの を気用いっまて変むとゆんらしいのれ いわれていはかりの地言きからの と下俸と了人後写戲八藝年低香風過多小田 りとろとべらりなりも書いいのこまと おくろうりもるかとなる人二十つま

事かれて さいものからのない いのうせいぞうなつ はます

まてくけーとうのへるあれせをは田島 香棋のあるいろりのおおおけてつらる夢 からからななくやはるの様 られのうくみますはひかきえ のおはのでらくろうるのとれら、寒

とうからう名山のうちにかり人を

はないらさたらめるいなること

石あって は後野る放山の境ストて色思く から 地つらよー南小はもあるり東西三里の夜 小押あかい蕎麦の一次にくり五穀不もの かくときのとつのうかのくうとそ都を ありして安了る生のまつくうれるとは くくとからのやに良くのういりるける のひかってののそのいとはれ時 このいうかられのをあめりをくる曲川の ない時あつりのかのうろうりゅううも けっきとうしゃしてくる りていくのうりさんとうという日のるれ かとうせきずたくして サリヤ すくろうろまくてるろうきん の印むとうて一夜とあれる話へらは うるえるかるかまて、多松多村と小次 すりとくや夕端ちろく 遊かのます あきやけれて此山ちり 始之を養の島の そちろうしましていてろうかくをけ 一きろぬくつもない送行 女とろ 1774

人というない かいしんかんかいかい

いるとこれのかのなるはくいはから 中小いろけるち馬をあるととく 裁八崔もむとくそりにかりたいからいる かきとうけく 順格地かり はをむいる かるかってありしまんないかのかれる とこのうて知答のあれ そうなのあましていとろは器大海され くれいないかればそい牧はたりとは縁 下ときろいろかあのフいうのに回の他 はったのすかしめましましまいるれ ろうてくうからわくってと田島 るの後門の横木今るあることはからりは 九日宝了時了的人中人上田の城 ならうろこはしける第とかくこそかあり 了了好吃与了文十二日十八十九日信云潘位 そし押し猪ぬころううらってれるのしると ぬるにまとりとせてうりけるに二けるい 馬のふろあるまってるまする の许るないとことといけるの親多 をありめれいますっそかね してもほう

スプン大学を受け、明日と大きのの音をは他に

枝ん村り はままときと手食のなとう るよるななからうしょうへきなとり うや焼光のなりして山産岩石とはいのか ゆる萬切の震力とうとうを動にしる 万朔ぞくく の群島了山宿寸 物で言いるけてい 新とうちゅるたろ 気まとけるよける ういく うれいまる幸村ころ 情と返く刻 物うち おべの の墓と見かし上お絶村しつくらころり 村ははりぬきり持ちをあるとれる そてずりかかいくけましているく事屋 みく鬱憤いりとなし 間はのめやゆうられひりり るちかろしく 現ることとととなる 見なと十 今とちの橋となるととう 0 5 Ex はとおして丹はなとこ之奉り あのはいきくかく早年かりく ゆ今内ら れかけっともうくつと ありるるか 感 かかさままりて 1 英勇

何くとまくふこきりってある鍋りてる 神る旅食とはなえ 唯中りしちつと かくにもろみてを見るちわのかれら あいきしめ 十歩るもこ そうと 母をとんなとつっているれ くかからゆつとて くいいくいちのあるからて戦え 雪からいるかれる大ち しの川の馬したりける 「幅かろき、めてる立ち 1 5~

まれて、大は本日であると、高のかいととはできる時

いらくし地からしろにやそたらては降を そにたうかれ代標屋くしてあるのつ もらの金利、帰湖あらして雪とこと

すてきなるのうあているようなと

度け件境ととり一様了る限川からう

このかなとあるをよいひりし天生の吐食 といいとのあると最ものゆるめをといくもの けろいたうきころか戦舎をはののある者 難か」を見の恋るからろ人民からく ~天台上觀人 色場とらしてる かしてす

あのないかしくるのとうとってくろれいまで

の色思し らうくうなもまからかろむんとは ランむし毗会務様の人民ようい 減に そく 勢かをけらら如素、大些とはない おうくく、を然となれるころとよく るとにずい衆生とてこくとろつこうと りほうれ 養言院公となり

大大八大日本大学に、田中中一大大学、

たらしれる和して日あとりては見 ようそいましまれる 門名とろは海 と了人至分的誓」 うせのあいる~~~ 数子長を佛物 とゆるかとし、もと四方十萬に上と いてきろういせつ

の虚空りがいるとなっえこるの内部 あるひうな 看事とるへ十会と過へいのる とかかているるあるろうそんとこ 椰子はのうるけて長者の八代蔵を見 りんい沙地な 観青男至の三體西方 ううろんと同は檀金という待ろ

金事件法東南の野るちつある無力小

的東減 ある 像大学了了了了

きりけら是順落提才一の佛 像かり

文表中五省勇约三十九尚七少一至校也以 年堂、世六代皇極帝の初秋小了人建臣 ちす あと南命しを量さかと北空山をよる うつ 東と電湖山を名る西とないゆ をすつとするころしたのかくまつすい 初の佛像年時のかまと きつかせあるり 日のか人皇世代 我明帝十三王中のこ う場かなななら にきしるういぬ 十月十二の万年周り はというとう らせるなるけるへおくろうそりのなと堂」 多いかわりになえったかかるとみかしてま しまけく四門ともうりを堂ろるりき十 いるいらなともしき動すつけ 本田のをえところとのけやまるあれなり 佐俊立五百部 羊井鄉 新續日長久多 りなしてるるないを見かるなくしまい 子多ろて世代 推古帝十年四八日 一人を楽了巨路のたましている をでりり 皇朝最 Maria Control of the しまりり

を殿文の子子六月でからこの でるいっに名號とはくなってとうくの国 なとらん物至、たるあってたのでとよう 風かると年代にたかり 堂の右のことうて中来を苦えた根はなる 印かり観音がまのなったらそをわった ろうす像あり 青得るちょく 用能没の いの前右程、息とか 常の本定のる的り 觀看物至らせ小桂色の えこるのる後をかりつう 年夢の 海池神の時像門長三尺子 敵名安安の するしかられるく ろろんとと ゆとふかり大初迎、多~ 中なとけるけったとうに今回い 了好學太年堂、两日 に過你の意となれ合学 日活むっ うとくとも松件 他のうち 檀香の在處了了 とめるませんろびなく 一天艺鬼事七号 一マタに本して刻る に必要いを言 ~くのう~ ーてあるいと 像再建の仏 そ野の名 印相 艺 す

花のころろとるようと句のう 面来等師と合意低額して名錦とある いるかり清焼とこちるてすり たをうとしまかたくまつりゅうし 観喜のふきなあくす様しうくくく 7 小君世川堪の佐塚光の遍思のちんむる 507 ア斗をのあるかい今をかなる 礼 もりやほじタョのあるを草 ひ~をないずうへのをうん 行うく目れやかろうへろう 一からい強数や額は合数の礼 そめっとつれ合様と ~むちろか 光着黄线眼を信心の味 うまていをとさめつまのえてすり 1人送のほれとれてはる きてもちつるめとく らんちの後とありて なころくの堂中小充滿 やから値過しるあ 樗 如南谷 でぬは 数る

引の方後とくしゃくしては焼のどう 連 やしるべくくしきよけるようこから 夜い亥の対をくろうろうちろしめるにお有 智のわらけるべいずしいむけっにするな てるに盛利すまりてそりと的してい あのとうれもねりうろうころあろくす むんかっちいかる者在のとし ないとうとものしかやきるたろしゃんとい すっけるあるーったろめの山流の言 宮のうちりるるるの会佛一級り うくころいとぬくとけなるまうてけるい く長めのつれとろうとくってもないり 会しいりとうろ場めてをられてととうく 名と第四つさんだっとかととりくるに 度みのはならした 月間よらかなかす もくからろまでぬるなとくとってもとのる ころといを入きの一つとかり自分の义母のち かして寂美なり 過表とつとむるよん そうかゆうのきょゆふそ 义君の市 佐澤 一切うらてのり煙と書けかしたか 一个物效

人とは大田といれてからからは、

のくるこのいろとろってうてもれても寅の时 けるううなとあいなるくすろうに堂中 旧書小福姓と引 くまいるらうにくりかしく 唱まるに そくろころをいてするけれかとることはつ の務気群集ちっゆへいときくっ 根の利益ららちろしとなとをでく 息鐘とかりし大勸追内敵る会事しる む書きと見るる傍桜たおるかりいるろい のくこのとうかのろうろまやちけ つき事地のもろしるくうちとれるの 小ろくなく精るとさえなりにとる われているのるい変れの野と調へ草ある むくなりくとけたれのあるういくまり りての光着入けとなく際とつる的な とける病の色の変像のひとを研る夜こ いるとれるとしているは個局は海島に 後級と行くすりまの夜でえれ -そ一をとう一男 く即将都体の人とのつうち 物ものうかをしたかり

M N IN A STATE OF THE REAL PROPERTY OF THE REAL PROPERTY OF THE PERTY OF THE PERTY

によるいる間でもない いのにもになるにはている

色女子」する 松杏合心三年一子願心此 かとうり本れの彼るやかて月牌の電牌 ろうな眠れば見かりる 唱成りかき、勝力けしたるとあり 切往干等絕一切同發菩提心谁也安樂國人 はちろしてるへきらし 本種の平後ち くりまるそれなのは館のうちとあむ あのえをとかってまへて發落提 出なるのまるや 欲くかんいる And the second s - 常四ちにかれるけるかいも

大きいる内部できるといいのでは、いからないとからないはないは

いきかいくかくちろはなとうろといくと 母はなりいまて了る人うつのあってろれ おうろうなこのゆるとないからいている きゃうしなしをからて 大门とかくと 朝的といするまるかかりしく おものしゃり らんろくとるかく かろうかれはあととっかくとそろうろの ろってしずる まるがかししなることとうし 川のこまらむことはきつつつ うう食いろうかのうらにませのあるすと しくないこ d

TAMES TO SECOND SECOND

たともくなく とくっとてなり そうたろうしんのうとうときてするしん はかりょうかれいけまへいろくときことの一井 ろうておけるましてるというとなきは からかるおとろうとすろうではっていること てあるままるくる田興清しきい ぬるのをうてきる後の帯しからく そうそれり ちょにきかいもか ところ村の草一亭どうなて今書いてくすり 多流のるやらつかく むれか まるるときる

るいころかるかくうてるく ちたうけきてん たのはなるかといとれるべいのきのあとから かちょうちころく 月の好かなてい須要赤 名り一ちの更級の記場ないいうといまし そかなるを続けるあまりるさきなり 今卯月の室分子中秋の珍能さそとから とあくうて放え院長出るるのかる いうないしいとうより変ねの男とうれ はいとくけーかのはようるをかく ころう ぬかいとうろろー 被ぬのんかり

THE TANK THE PARTY OF THE PERSON HAVE

るでもらいちく柳田四十八枚あり中秋のい あるいところくはあるかりゃのかくない 無人子は外不 國子と月見をとろろう 満月風と野もうかをうかく際とうれて のはいろくのうしろとうりてからあのと ノぞいゆんすろく田野の強るありもれ質 よい姓ん思く島画のほどからないく様のうと とめし、なんのたのうに、養室といるそ い桂樹もく茶くとろけてひのいめろう あり写意る数とうとのめるとからぬ体 一宮の神んかりととり東のととから かくたころりとすしくはりよりないろうち てきまち そんたち更科川書ですり趣過う くろう なしいりろのしる山地とり 了人後是己多何己の二景王维,包络人 りょうりのうけるるなるるといろのちら いかずすなるとろうまれてしてなう しくこでしいるおうるのをくしとの 後すっ人は川のスとそ 死と思 いろかとくかのといまし

はゆう一定式の別神然はある~っ今ち 長くをれいなる南京しなのひろき かろうていちまと別ねちりととでも 見る 小道でとろうちろかいろうけでかって たしあるおのは感的りなきとませるとうか のな量りつうにけできり南る老井の格でも ゆりして 甲秋の西将五我をうかりし 虹旗 れ川中場いとうちるかけたる養花の去 それ曲川で練るあるいしてもちくな こく あふっこれたる家をひとるの

ものを精いてきかなくんや い五彩惨ばくして母るるをうこと や五里あまりとえるころなる住景ある とあるくちく戦産のふとっともりれるひく くとえる飲のちろおるはくとはくけで南 一户路山層な~~ て白雪のはりきろすくる あろしてるけれたけりかなしと 多ってなくさいれらてのかり むっとおよういしてあり とてもてかる あれりろい

LEGITATION DESCRIPTION OF HAM LEGIT MANAGEMENT

いろうしてもはしはのうろうとりもれ 住家物でろとうそれけ慢の遊とだ 失焼するでつくころかしていいすとう かりととしけありたと町とゅうあ かきりかり くるくり舟でくろう ア るかのかるはそのめでるろい少中我のうろ 情うあせるを見る音をもり一夜二次とゆう くいかとくてぬいくそというつかろう 食の高と如かれ申の対ちりて はまかなり かくてのくるからるれてんあか からうし時端して くるいかそのりとはることとと限ろ 中海とろういえかろし 格からろとれるう 月上流一青田子町山いく重 しろるんぞれること中村でとてかいあり 投轄の友とさるいとうをありのかる 於了一次代为伤心此一夜 DE BELLEVIEW DE DE DE LES あっくてしりはってあるはあんと あるやです 若代花雲 3

たうのいありとうけるるー・ふるとくありる 四町かまりかやありと近のころろうよいねの やれのかうちやと其相ととの応後ち 大山尺樹とのいう~十ちょとくとちす馬 吸わいるすの思問のななるからし ラインーて頂まれかるか 満まけりる らをいゆくうけるといろう質をころせて心の 見人をうりからいっしかるとそしの 多くなどとくくさい泉石はよとろってく 義清人墓うり 接尾ちゃ あかいちょうしいよ けをとうとかくめくに者を付きに村 四時天鷄の野をけかるかろうこれと 日山の残るかくれるあまくらくとくろうくさ とかしとのいるけらむるをからしからと ~~ろと教えの中のおよりたのじょきり するかろくうめ となっとそろの はあるいととくとおろうというへろる していれのもくときありなるからい 心的で 茨の都と足と傷を

トンであるというのというというというと

SIGNIFICATION OF SECULAR SIGNIFICATIONS OF SECURAR SIGNIFICATIONS OF S

ALM STABLE OF STATE O

て布川山とろうろきしゅくに川ありる曲の 再相の感とらうへくやりくと彼りた 川上やあん水とるしまるちろ うちと押しかきらととうてかろうして 布川山公町でかれるかとはいしはい そのあやりようところむっとなりるろう くずれまけしのおかをなとさった くろりくくとしあってく検明る時し 這とるかと私のるからくれ て~しかくろんやもるをけなかなれ

西行元とろうは蔵元るをとうくるて 他項了了了ぬ宝窟の中央と切り~~~て おとうかちをえろうしてきじるとう 上人ことをすてはたすからし きさをうつか ナーとなどからく 女あなるてかれか 内すとうのうにとるまとあく うらにあい 意い残らつくりこける 棚丁と送れりちてる 坂东十七高の観るろうなとあまろうます 王子子の例はとのとかく 月くかかく 板色」けや 山みる

MENTALLY SECTION AND AND SECTION AND SECTION OF SECTION AND SECTIO

ALL STANDARD BEING WARREND BURNER 立のえてれてりはるしたちて手系馬野科 まるのなをとかれてえるに寒中」でれる一种 やと 欲えやかくらなるなしてかありらや となるりと人のほうとうしてあくうるとい 退かの賣好少かる客とひりくくめから とはそれてはりといなのなる的か ろうのまうけかかとくいろした春 春からのあるりころかまとろうちものは てなくやつのなかりと星人の数けかりつち このうろいれてはるろうとこととうしとるい をするとろく い明らけらしとうかととうからる節 そいあるかる私人ありまるあのうと 多のからういまかろうりてきてもなるとろい回 シェイないきてからあめてるとろうけ 軽り降るあとってかるのたのはっとと とうというとなるなさくいろとり とちらくくせるそうころの きてんとろうかずりのうとうなみ あけむ是を煮酒の あきりか 3

MERCHAND SHOW AND SHOW AND SHOW THE SHOW

香かとのはしているあいくまとしまけ 六日きの人をとううちあるるん せんへとくたちかのをれら 白井の味 て人くまるえどなるしつ明からうしろ りてあずは望いるよいる具ろうつからといい はしのぬのなかり目のくり なりくろしといのはくしりてあるり りあめるとてはらくからっにからる まからるまちゃしりのまのとりいました いかって 先子める

メミン古書である。 おうせい 大きのこう

雲山の三字を頼るかけ陽及度及の二路とか~ 实元として光岩湖雲かり子何の嚴の例 心のそちをとうるるうへんろうかく 吃とくるたのかになけの変えの社あり 面は大の一字と白く形かな人巧のあめなりや はくりところ 門とろく銅の華表と建白 ろうす旅会、たなる野るのとのころののよ うれりぬくとあるかくめまいるろん るまきはとかえるう おもているっまるのとかえこい

MARKET AND SECTION OF SECTIONS

さて随えたりるつろい情様あれいるり 治さないとくくとていちるれなののとなし そかとそやももろまうとろとな事ふ ちる音澤をきつのあるかくあはかく 一面からう一面わったろうからうんい

THE PERSON WITH THE PERSON WITH

はぞし切のたらくまといるがはの ともりひとうしるいるしゃれ井田まかる うくらんけるうの名くしか

きのもとき~に今者いるるをううちん

くなとそのけきらし

連門をいまるるのしょうしろうくる 食なれの街頭のできるかれらろの宝くせ あるゆういあとうしぬ シーはるというろるといるけるのらり一人 うれの含むとうどもろかをうるよう てらに雷祥をろぬといからいろう を暑とうりたらことめるまかくうりて きるう竹の気をとるとし 七月状まがたのほとかくいくと村るり すつるし、再よりはいの論をとも

はないませんでは、 からはいないがら をとにをとればいる

有るはかとりけつうまやうちをとける あを入るをそうて 年みのあとうえばなのあるこかららく いってくれたきとも西凡っとがるらとくっこ なるとてくるとかとはしぬ 色あるい家の軒る小様のかのるとする くかはえけるったりく かいかくみあのさろ けるりくかのないるかしとい 園内のかつ けんとやかくつかき

送しをイナ里るちっかとたしりて板橋 田村和と教了明時日ちるとり見偽弟子名 でかかってからしているへのと村蕉 九月晴島のもろうえるかれるつじめてよ 十日うれりむってはなりとかるくにいかい めんはうきしあるからしな人く のまううやりける露をといきもらり とそれえるかりぬ に都しれとろくってる ゆへらりり しょろういかきかんの見れかととう

STRUCTURE OF SECURITY SECURITY

土日やまでのころうりゃくちなのなかく 夏草やめれてかられる経中 からしるのうるとけった

公のはずあっよりからからのかしいっち むしかつろなかきて年のはるおりてい 其玄松明っとひうかるままったまろうとしく ふきりれるうなしいろく ゆうて 苦水 かくなないくれるころとなんまのうつつる 人とすく

又新の霊牌のかろうつくまりちの 長途さることうるあるののちの 好的人 地名村里多时经群





